

日本の気象台が観測した最低気温は、1902(明治35)年1月25日、北海道上川(現在の旭川市)での氷点下41.0度。同年1月末は全国的に大寒波に見舞われ、陸軍青森歩兵第五連隊が八甲田越えの雪中行軍で遭難し、199人も兵士が凍死した。

図1はその日の実際の天気図である。この頃は、気象庁を中央気象台と言い、気象台を測候所と言っていた。測候所の数は全国に83カ所あったが、外国のデータがなく、海上の観測もない。もちろん、アメダスも気象衛星ひまわりもない。天気図といっても等圧線が3本書かれているだけ。とても天気図と言えたものではないが、よく見ると九州の西にHIGH(高気圧)、北海道の東にLOW(低気圧)と書かれており、西が高く東が低い「西高東低の冬型の気圧配置」がうかがえる。

当時、青森測候所(現在の青森地方気象台)は青森市長島の青森県庁内において気象観測を行っていた。その時の市内の気象状況は表に示したが、猛吹雪の中で凍死したという24日は最高気温が氷点下

# 天気急変が悲劇招く

## 今月のお題 八甲田雪中行軍

八甲田山雪中行軍(1902年1月25日)のころの青森市の気温

	最高気温(℃)	最低気温(℃)	平均気温(℃)
1月21日	2.5	-5.9	-4.1
22日	-3.7	-7.1	-5.5
23日	-4.5	-8.7	-6.7
24日	-8.0	-12.3	-11.0
25日	-8.0	-11.6	-9.2
26日	-4.9	-9.7	-6.8
27日	-4.9	-7.8	-6.4

青森市の気象データの極値

最低気温	-24.7℃	1931年 2月23日
最深積雪	209cm	1945年 2月21日
日最大降雪量	67cm	2002年12月11日
降雪合計	1263cm	1986年
真冬日最多日数	75日	1945年
真冬日最多継続	21日	1922年
真冬日最少日数	5日	1949年

※気象庁資料・ホームページなどを基に筆者作成

陸軍青森歩兵第五連隊が八甲田越えの雪中行軍で遭難した1902年1月25日の天気図

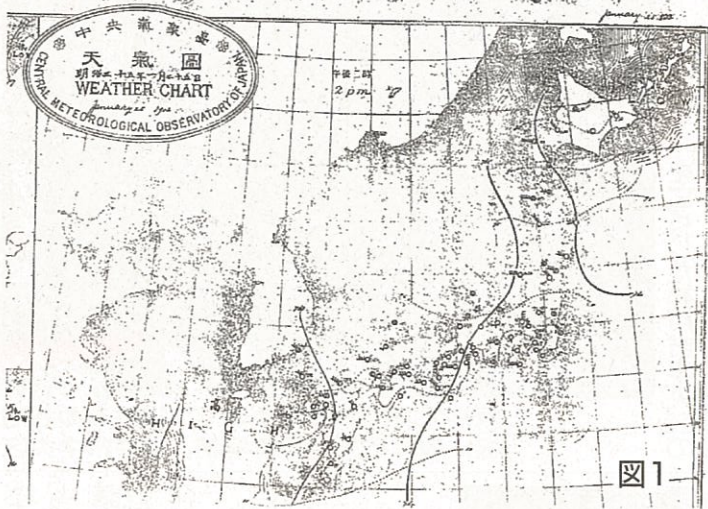


図1

8・0度、最低気温が氷点下12・3度だった。また、平均気温は氷点下11・0度で、現代の青森市における平年値より9・4度も低い異常な低温であった。市内でこのような状況であるから、標高の高い八甲田山中では例を見ない極寒が予想できよう。

このように、とんでもなく厳しい寒波の中での悲劇ではあるが、悲劇の最大の要因は、天気急変を予測できず、的確に対応できなかったことだと思われる。世の中で最もつらいことは飢えと寒さといった表現がヨーロッパの文章に

ちなみに、北半球の寒さの記録はシベリア東部、ベルホヤンスクの氷点下67・8度。南半球は南極大陸ポストーク基地の氷点下89・2度。どちらもロシアが観測している。

この冬は今のところ暖冬・少雪気味であるが、1月20日金曜日は「大寒」。長いスパンで見ると自然は最後には帳尻を合わせる事が多い。青森県の本格的な冬はあとおよそ1カ月。スキー場の雪不足は懸念されるものの、大雪や寒さをもたらすような大寒波が駆け込みでやってこないことを願う。

(工藤淳、気象予報士・防災士、アップルウェザー社長、青森市在住)